

「小泉八雲」— 明治23年(1890年)に来日し、日本に魅せられ、明治29年(1896年)には日本に帰化し、日本に骨を埋めた人です。『耳なし芳一』『ろくろ首』『雪女』などの作者といえは多くの方が肯いてくれるでしょう。

1850年(嘉永3年)6月27日、ギリシアに生まれた彼は、日本に来るまで、不運の連続でした。いや、日本に来てからも、そう恵まれていたとは思えません。

それでも彼は、知人の勧めで訪れた日本で、当時の日本のあたりまえの暮らしに連れ、日本に惹かれ、日本でその生涯を閉じることを選びました。彼の長くはなかった人生の4分の1に相当する期間でしたが、何かが彼の価値観と一致したのです。

彼は、日本のどこにそんなに惹かれたのでしょうか。「やさしさ」や「思いやり」、ことさら弱者への「いたわり」、人々が見せ合う「微笑」、そうしたものを非常に心地よく感じていたようです。それと同時に、西洋文明の流入に伴い、それらが失われつつあることを嘆いていました。

彼のよく知られている作品の多くは怪談・奇談です。しかし、それ以上の数のエッセイ的な作品・スケッチ風の作品があります。そこに描かれているのは、当時の人々のごく普通の習わしであり、ごく普通のものの考え方、ごく

『天の川幻想』 小泉八雲著 船木裕記

普通の人のつきあい方、ごく普通の信仰のあり方です。

日本人にとっては、自分たちの日常であり、当然のことであるが故に、それが外国からの視点で見た時にどれほど驚くべき事か、気づかずにいたことばかりです。それを、彼は「文学」として、世界に送り出しました。

小泉八雲は、確かに日本に帰化し、日本滞在14年のうち、9年を日本人として日本で暮らしました。それでも私は、彼はやはり「文筆家 ラフカディオ・ハーン」であったと感じます。このような見方が、彼の意に添うものかどうかはわかりませんが、自身でも意識していたと受け取れます。

不遇であったが故に鋭く物事を見抜く感覚を持ち、物書きとしての腕を磨き、アメリカでジャーナリストとして生計を立て、日本人とは異なる価値観の中で生活してきました。だからこそ、文明開化の掛け声のもとに、捨て去ろうとしていた日本の「古い」美しさを見だし、文章にして、世界にばかりでなく、日本人に対しても知らしめたことは確かです。

明治37年(1904年)9月26日、彼が東京でなくなってから100年あまりが過ぎ、彼が「美しい」と思った日本は変わりました。それでも、失われてしまったわけではなく、いざという時には顔を出すもののように思います。

資料奉仕部 震災文庫整備チーム 佐藤 まどか

図書館からのお知らせ



INFORMATION

第45回子どもの本展示会を開催します

毎年4月23日から5月12日までは「こどもの読書週間」です。宮城県図書館では、この期間にあわせて、子どもの読書活動を推進するために「子どもの本展示会」を下記の日程で開催します。平成25年に出版された本の中から約2,000冊を選び、絵本や読み物、知識の本、児童書研究書などを展示します。

この展示会は、昨年より1階エントランスを会場として開催しており、たくさんの方にご覧いただきました。児童書を選ぶ時の参考として、また新しい本との出会いの場としてたくさんの方にきていただければと思います。図書館にお越しの際には、ぜひ立ち止まって手に取っててください!

なお、本展示会終了後は子どもの本移動展示会として、希望する各市町村図書館や公民館、小学校等を巡回する予定です。



- 期 間 : 平成26年4月23日(水)から5月11日(日)
- 場 所 : 図書館 1階エントランス
- 時 間 : 開館日の午前9時から午後7時
(日曜・祝日は午後5時まで)
- お問い合わせ : 子ども図書室(2階) TEL 022-377-8447

平成26年3月28日(金)の閉館時間に変更になります。

平成26年3月28日(金)は館内整理のため閉館時間が通常よりも早まります。利用者の皆様には、大変ご迷惑・ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

変更前 午後7時閉館 → 変更後 午後1時閉館

東日本大震災文庫展Ⅳ「小松左京が遺したもの—震災の記憶・未来へ—」を開催中です

昨年10月に開催したプレ展示「小松左京の世界」に引き続き、阪神淡路大震災に対する詳細な調査・分析から、将来の震災への対策を提言してきた作家小松左京氏の足跡を紹介します。

SF作家ならではの幅広い視点での防災・減災を著作『小松左京の大震災'95』などから紐解くとともに、今後構築される宮城県震災アーカイブについても紹介します。



- 期 間 : 平成26年3月1日(土)～平成26年6月27日(金)
- 場 所 : 宮城県図書館 2階 展示室
- 時 間 : 図書館開館日の午前9時から午後5時まで
- お問い合わせ : 企画協力班 TEL: 022-377-8444

メールマガジン「ことばのうみ」がブログになりました!

多くのみなさまにご愛読いただいていた宮城県図書館メールマガジン「ことばのうみ」が平成26年3月からブログに移行しました。

ブログではその月の催しものの情報や本館職員からのおすすめの本の紹介、子どもの本に関する情報などを掲載しています。

ブログに移行したことによって、より多くの方に見ていただくことが出来るようになりました。過去のバックナンバーも掲載していますのでぜひご覧ください! ブログは宮城県図書館ホームページからご覧ください。

<http://www.library.pref.miyagi.jp/>

表紙エッセイ

著者紹介

隼見・果奈(はやみ・かな)

作家。1985年宮城県生まれ。中学卒業まで涌谷町で過ごす。旧・古川女子高校卒。進学に伴い上京後、本格的に小説の執筆を開始。2008年に大病を患うも日常生活に支障が無い程度に回復。2012年『うつぶ

し』で第28回太宰治賞を受賞。東京都在住。受賞作と書き下ろし『海とも夜とも違う青』を収録した単行本が筑摩書房より発売中。

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代国語辞典『言海(げんかい)』(1889～1891年刊行)に由来する。

第47号

2014年3月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205

仙台市泉区紫山一丁目1番地1

TEL 022-377-8441(代表)

FAX 022-377-8484

ホームページ

<http://www.library.pref.miyagi.jp/>